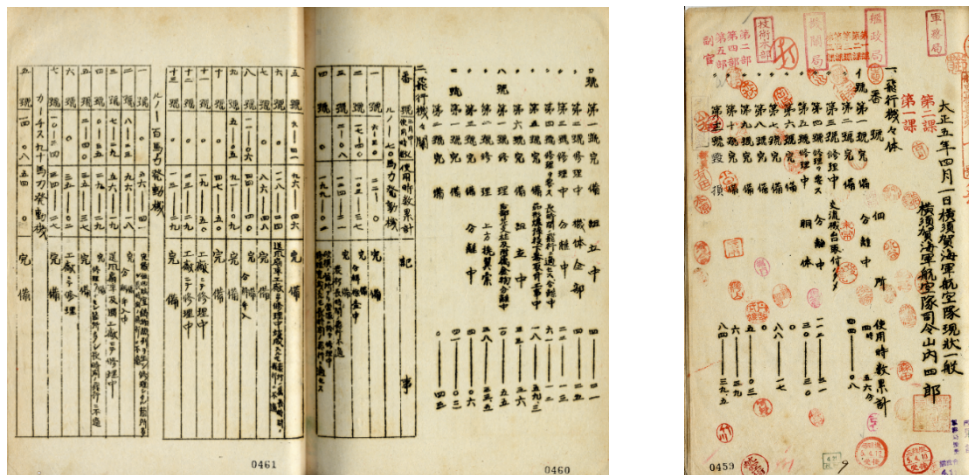




「大正五年四月一日橫須賀海軍航空隊現狀一般」

軍用航空機の研究は明治 42（1909）年に陸海軍合同で開始され、明治 45 年になると世界の趨勢に鑑み、海軍独自の研究が始まりました。

そして神奈川県の大磯に南北 600m、東西 200mの飛行場が建設され、大正 5（1916）年 4 月 1 日に横須賀海軍航空隊が創設されました。

史料は、創設時における当該航空隊の現状をまとめたものであり、保有する 22 機の水
上機と 33 基の発動機、4 棟の飛行機格納庫などについて、異状の有無等が報告されていま
す(登録番号：海軍省-公文備考 T5-21-1893)。

創設当時は、保有していた機体がすべて水上機であったことから、地面から海面へとつながる水上滑走台が4か所に造られていただけで、陸上の滑走路はありませんでした。

その後、艦上機の採用に伴って陸上飛行場を新設する必要が生じたため、大正 12 年から隣接する海面が埋め立てられ、最終的には長さ 1,200m の滑走路を備えることとなります。

教育、研究から始まった横須賀海軍航空隊は、のちに防空任務にも従事しつつ新型機の実用試験等にあたり、常に海軍航空の最先端に位置していましたが、昭和 20(1945)年の終戦を迎えました。